

久美愛厚生病院研修プログラム5



岐阜県厚生農業協同組合連合会
飛騨医療センター 久美愛厚生病院

目次

・ 研修理念、研修プログラム概要	2
・ 内科研修プログラム	
一般内科研修プログラム	6
循環器内科研修プログラム	7
消化器内科研修プログラム	9
呼吸器内科研修プログラム	10
腎臓内科研修プログラム	11
血液内科研修プログラム	12
神経内科研修プログラム	13
糖尿病・代謝研修プログラム	14
内分泌内科研修プログラム	15
感染症研修プログラム	16
・ 一般外科研修プログラム	17
・ 麻酔科研修プログラム	18
・ 整形外科研修プログラム	19
・ 脳神経外科研修プログラム	21
・ 救急部門研修プログラム	22
・ 眼科研修プログラム	23
・ 皮膚科研修プログラム	24
・ 泌尿器科研修プログラム	25
・ 耳鼻咽喉科研修プログラム	26
・ 小児科研修プログラム	27
・ 産婦人科研修プログラム	28
・ 精神神経科研修プログラム	29
・ 保健所研修プログラム	30
・ 地域医療研修プログラム	31
・ 療養型病床研修プログラム	32
・ 在宅医療研修プログラム	33
・ 住民健診研修プログラム	34
・ 基本的な診療において必要な分野・領域研修プログラム	35
・ 臨床研修の到達目標	36
・ 研修医評価票Ⅰ（様式 18）、研修医評価票Ⅱ（様式 19）、研修医評価票Ⅲ（様式 20） 臨床研修の目標の達成度判定票	

久美愛厚生病院研修プログラム5

【研修理念】

1. 医師としての人格を育成し、将来の専門性に関わらず、医学・医療・保健活動に対する社会的ニーズを認識し、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリケアの基本的診療能力（知識・技能・態度）を身に付ける。
2. 地域住民の健康を維持する住民健診活動を実践する。

【研修プログラム概要】

『特色』

1. いわゆるスーパーローテーション研修を特色とし、必修科目のうち内科、外科、救急を1年次に、精神科、産婦人科、外科、小児科、地域医療を2年次に研修する。2年次の約7か月間は選択科目研修とするが、院内全診療科を含むことを必須とする。各診療科の検討会、研究会や学会にも参加する他、臨床病理検討会（CPC）での症例提示を行う。
2. 2年間で約100回の当直・日直での救急外来研修を行う。
3. 地域全体の医療における病院の役割と各機関との連携を学ぶ。

『目標の概要』

臨床研修の目標は、医師としての基本姿勢、倫理、使命感の養成及び専門医に至る道のりとしてのプライマリケアを中心とした基礎知識と基礎技術の習得、さらに患者・家族から信頼される医師を目指すことにある。また、医師がよりよい医療行為を行うために必要な協力体制がいかに構築されているかを知り、看護師、薬剤師、検査技師などと協調性を持って診療ができるようになることも重要である。

『指導体制』

1. 研修医は研修計画に従って、科ごとの指導医の下、各科研修カリキュラムで研修を実施する。
2. 研修医は単独で患者を受け持つことはできない。上級医・指導医の指導の下で診療する。

『定員・募集方法・採用方法・研修期間等』

- (1) 定員： 3名
- (2) 選考日： 随時
- (3) 選考場所： 久美愛厚生病院
- (4) 採用方法： 面接

- (5) 申込方法： 電話（0577-32-1115）、
またはメール（soumu-3@kumiai.gfkosei.or.jp）にて
- (6) 申込期間： 随時
- (7) 研修期間： 2年間
- (8) 待 遇
- 身 分： 常勤嘱託医
- 給 与 等： 岐阜県厚生連給与規定による
- 諸 手 当： 通勤手当、時間外勤務手当、休日勤務手当、深夜勤務手当、寒冷地手当
- 勤務時間： 午前8：30～午後5：15（休憩45分） ※時間外勤務あり
- 休 暇： 年次有給休暇 … 採用時から6ヶ月に3日、
勤続6ヶ月で10日、勤続1年6ヶ月で11日
夏季特別休暇 … 1日（但し、6月1日より8月31日の間に付与）
- 日 当 直： 保険医登録完了後、日直 月1回・当直 月4回
- 宿 舎 等： 有（平成28年3月完成）
- 病院内個室： 無
- 社会保険： 公的医療保険＝政府管掌健康保険、公的年金保険＝厚生年金保険
- 労働保険： 労働者災害補償保険法
- 健康管理： 健康診断 年2回
- 医師賠償責任保険： 病院加入
- 外部の研修活動： 学会、研修会への参加については、年間150,000円を限度に、
旅費・参加費等を支給
- (9) そ の 他： 研修期間中はアルバイトを禁止する。

『研修スケジュール（例）』

一年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科 (26週)						外 科 (13週)			救 急 (13週) 「脳外科・整形外科・麻酔科」 (各4週)		

二年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域医療 (6週)	小児科 (4週)	産婦人科 (4週)	精神科 (4週)	保健 医療行政 (2週)	泌尿器科 皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科 (各2週)	在宅 医療 (1週)		自由選択 (23週)			

『概要』

1. 必須研修科目は、内科（26週）、外科（13週）、救急（13週）、小児科、産婦人科、精神科（各4週）、地域医療（6週）、及び保健・医療行政（3週）。
2. 内科研修26週の間、一般内科外来研修を毎週1回実施する。したがって、一般外来研修としては、5週の実施に相当する。
3. 地域医療研修はへき地診療所で行い、併せて在宅医療研修も実施する。
4. 保健・医療行政研修は、保健所、健診センター（各1週）で行い、各機関の役割について学ぶ。
5. 在宅医療研修を1週間実施。
6. 自由選択を7ヶ月とし、その期間には当院の各診療科を最低2週間は必須とする。協力型臨床研修病院・施設で3次救急や心臓血管外科などの研修も可能。
7. 基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修を必須とする。
8. 臨床研修の評価は、各分野の指導医及び医師以外の医療職が研修医評価票を用いて行い、到達目標の達成度については年2回プログラム責任者が形成的評価を行い各研修医にフィードバックする。
9. 臨床研修終了の判断については、プログラム責任者が各研修医の目標の達成状況を臨床研修の目標の達成度判定票を用いて作成し、臨床研修管理委員会に諮る。
10. 研修終了基準は、以下の基準を満たすことを条件とする。
 - ① 休止期間が研修期間を通じて90日以内（規定で定める休日を含まない。）であること。
 - ② プログラムの定める必要履修期間を満たしていること。
 - ③ 厚生労働省の示す臨床研修到達目標の評価がE P O C及びその他の評価表により全て完了し、その内容に問題がないこと。
 - ④ 2年間の間に経験すべき症候（29症候）、経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）を全て経験し、全ての担当患者の医療記録を要約した病歴が作成され、指導医の承認を受けていること。
 - ⑤ 臨床医としての適正（安心・安全な医療を提供できる、法令・規則が遵守できる）が認められること。

『研修責任者及びプログラム責任者』

【研修責任者】 山本 昌幸（久美愛厚生病院 病院長）

【プログラム責任者】 横山 敏之（久美愛厚生病院 副院長兼内科部長）

※研修プログラムの管理、研修計画の実施、指導医及び研修医の評価の全ての面に渡って責任を持つ。

『研修プログラムを構成する病院群』

基幹型臨床研修病院：久美愛厚生病院

【協力型病院】

高山赤十字病院	(飛騨医療圏)
須田病院	(飛騨医療圏)
大垣市民病院	(西濃医療圏)
土岐市立総合病院	(東濃医療圏)
富山大学付属病院	(富山医療圏)

【協力施設】

東濃厚生病院	(東濃医療圏)
中濃厚生病院	(中濃医療圏)
揖斐厚生病院	(西濃医療圏)
岐北厚生病院	(岐阜医療圏)
西美濃厚生病院	(西濃医療圏)
岐阜ハートセンター	(岐阜医療圏)
高山市国保高根診療所	(飛騨医療圏)
高山市国保朝日診療所	(飛騨医療圏)
高山市国保久々野診療所	(飛騨医療圏)
高山市国保清見診療所	(飛騨医療圏)
高山市国保荘川診療所	(飛騨医療圏)
飛騨市国保宮川診療所	(飛騨医療圏)
飛騨市国保河合診療所	(飛騨医療圏)
ひだ在宅クリニック	(飛騨医療圏)
飛騨保健所	(飛騨医療圏)

「一般内科」研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

内科診断学と治療に必要な基礎知識や基礎的技能、系統的な問題解決方法を身につけることは当然の目標である。それに加えて、患者は社会の一員であり、社会的背景・家族的背景と疾病の診断と治療とに密接な関連のある事を理解する。また、臨床医として病院内の医療従事者だけでなく、社会で働く関連職業従事者との協調性も身につける。

【行動目標】

- (1) 患者及び家族との信頼関係を作る。
- (2) 正確で十分な病歴聴取をする。
- (3) 正確で十分な現症を把握する。
- (4) 毎日の得られた情報を整理し、他の医療従事者に分かりやすくカルテに記載する。
- (5) 内科的救急疾患の対応を知る。
- (6) 在宅療養者について、社会的・家族的背景を把握する。
- (7) 福祉・保健・司法（警察検死など）と関連を持ち、社会と医療の関係を理解する。
- (8) 健診の実状を知る。
- (9) 内科における各専門科の関連、及び他科との連携を理解する。

II. 実習方法

- (1) 初診患者の診療・記録を行い、その後の方針を立てる。
- (2) 訪問診療に同行し、診察・評価・他医療関係者への指示を学ぶ。
- (3) 検死に立ちあい、適切な意見を述べる。死体検案書を作成する。
- (4) 訪問健診に同行し、各職種の業務を観察する。
- (5) 人間ドックの結果説明、指導を見学する。
- (6) 日中の救急患者の診療にあたる。
- (7) 内科症例検討会、内科外科合同検討会に参加する。
- (8) 僻地診療に同行する。

「循環器内科」 研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

医師として必要な役割を理解し、患者さんに接する際の正しい態度や心構え、各種の医療従事者との協調性を身につける。循環器疾患患者の診療にあたっての基本的な技術と知識を身につける。

【行動目標】

- (1) 正確で十分な病歴聴取ができる。
- (2) 理学所見、心電図、胸部 XP の読影を習熟する。
- (3) 各種負荷テスト、心筋シンチ、心臓カテーテル検査、心エコー等、専門的な検査の意義と実地法を習得し、結果が理解できる。
- (4) 心カテ室、手術室で施行されるインターベンション（PCI、ペースメーカー植え込み等）の見学を通して循環器治療の多様性を理解する。
- (5) 救急患者、重症患者の管理を指導者の下で勉強し、専門的治療を理解する。

II. 実習方法

- (1) オリエンテーション
- (2) 受け持ち患者：常時最低 2 名の患者を担当し、循環器疾患の治療を行う。
- (3) 病棟実習：
 - ・迅速に病歴、理学的所見を把握し、鑑別診断と治療方針をたて、診療内容とともに常に問題点の整理をしてカルテに記載する。
 - ・循環器疾患に対する適切な治療方針をたてることができ、一般療法や投薬及び注射薬の処方が的確に出来る。
 - ・毎日、必要に応じて夜間休日も入院受け持ち患者の診療を行う。
 - ・あらかじめ、当日の患者の検査治療予定を確認し、検査や他科依頼の際には患者についていく。
 - ・毎日終業前に、指導医より診療内容・カルテ記載内容のチェックを受ける。
 - ・内科的治療の限界を知り、外科的適応の判断ができる。
 - ・緊急時の対応が迅速に出来る。
 - ・患者及び家族にも懇切に説明して、良好な関係をつくることができるようにする。
- (4) 検査：
 - ・基本的な手技は自ら実地する。
 - ・心電図、胸部 XP はその所見を間違いなく読影できるようになる。
 - ・心エコーは自分でとり、かつ読影できるようになるようにする。

・負荷心電図・負荷心筋シンチ・心カテは、その意味や危険性・手段を充分理解したうえで、指導医の監視のもとで介助し、その所見を読影できる。また、心カテの合併症と対策に習熟する。

(5) 毎週内科カンファレンスや内科・外科合同カンファレンスで受け持ち患者の症例提示を行って、検査・治療方針上の意見を得る。また、他の入院患者の検討にも積極的に参加する。

(6) 外来実習：

・毎週決まった曜日に、内科外来において初診患者の予診を行い、カルテに記載する。

・自分が予診をとった患者の診療を見学する。患者の許可が得られれば、自ら診察する。

「消化器内科」 研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

消化器内科診断学と治療に必要な基礎知識や基礎的技能、系統的な問題解決方法を身につける。

【行動目標】

- (1) 聴診、触診所見を得る。
- (2) 腹部レントゲン、腹部超音波、CT、MRI を読影する。
- (3) 消化管造影検査の実施、読影。
- (4) 消化管内視鏡検査の方法、画像所見を知る。
- (5) 胆道系検査（ERCP、PTCD）を理解する。
- (6) 消化器疾患の内科的処置、治療の方法を知る。
- (7) 腹部血管造影の実施、読影。
- (8) 代表的な消化器疾患を説明できる。

II. 実習方法

- (1) オリエンテーション：（場所、日時、内容：カリキュラムの説明）
- (2) 受け持ち患者：2名までの入院患者を担当医とペアで受け持つ。
- (3) 病棟実習：
 - ・入院受け持ち患者の診療は毎日行い、診療内容とともに常に問題点の整理をして、カルテに記載する。
 - ・毎日終業前に、指導医より診療内容、カルテ記載内容のチェックを受ける。
- (4) 毎週内科カンファレンスや内科・外科合同カンファレンスでは、受け持ち患者の症例提示を行って、検査・治療方針上の意見を得る。また、他の入院患者の検討にも積極的に参加する。
- (5) 各種検査の実習：まずは検査を見学してもらい、その理解度により順次実施してもらう。

「呼吸器内科」 研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

呼吸器内科診断学と、治療に必要な基礎知識や基礎的技能を身につける。

【行動目標】

- (1) 聴診所見を知る。
- (2) 胸部 X 線、CT を読影する。
- (3) 喀痰検査の適応を説明し、結果の解釈をする。
- (4) 喀痰グラム染色を行う。
- (5) 肺機能検査の結果を解釈する。
- (6) 血液ガス分析を実施する。
- (7) 胸水穿刺を実施する。
- (8) 気管支鏡による観察を行う。
- (9) 代表的な呼吸器疾患について説明する。
- (10) 肺感染症での抗菌薬の使用方法を説明する。
- (11) 在宅酸素療法の現状を知る。
- (12) 結核の診断と治療、保健所との関係を知る。

II. 実習方法

- (1) 指導医が準備した画像を読影する。
- (2) 臨床所見・手技については、指導医が患者の診療に当たる際に、共に診療を行うことによって実習する。
- (3) 喀痰グラム染色は、臨床検査技師の指導を受ける。
- (4) 在宅酸素療法外来を 1 回見学する。在宅酸素療法患者についての検討会に参加する。
- (5) 結核病棟患者の診断から入院、治療、退院までの流れを見学する。保健所の結核審査会に指導医と共に参加する。
- (6) 呼吸器疾患入院患者 2 名を副主治医として担当する。

「腎臓内科」 研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

腎疾患診療における基礎的な知識、技能を修得する。尿、血液検査、栄養状態の評価、腎を中心とした代謝機構、ことに腎臓病における代謝異常、個々の腎臓病、急性腎不全、慢性腎不全の病態を理解し、それに応じた治療方針をたてる。治療としての血液・腹膜透析療法、また、血漿交換療法や吸着療法なども含めた血液浄化療法につき理解を深める。

【行動目標】

- (1) 腎疾患患者および家族との信頼関係を築き、正確で十分な病歴聴取を行い、現症を把握する事ができる。
- (2) 毎日の得られた情報を整理し、他の医療従事者にわかりやすくカルテに記述する。
- (3) 腎機能(GFR)の測定の実施法、検査値の意義を理解し、目的を説明し、検査を行なう。
- (4) 尿検査において、一般的尿検査結果、異常所見の解釈をする。
- (5) 血尿や蛋白尿などを呈する患者へのアプローチと病状把握を行なう。
- (6) 腎疾患の診断に必要な血液生化学・免疫学的検査の臨床的意義について評価し、値の読み方を身につける。
- (7) 画像診断の IVP、US、CT 等の読影を身につける。
- (8) 腎炎・ネフローゼ症候群・糖尿病性腎症・保存期慢性腎不全・透析の生活指導、食事指導の必要性について学び、病態に応じた指導法を実施する。
- (9) 薬物療法における利尿薬、降圧薬、ステロイド、抗血小板薬等の使用方法を理解する。
- (10) 腎疾患(非透析期 CKD)の血圧管理・浮腫管理を修得する。
- (11) 血液透析を始めとして、腹膜透析、血液吸着、血漿吸着、血液濾過、血漿交換、免疫吸着、白血球除去法などについての適応疾患、概念を理解する。

II. 実習方法：

- (1) 初診患者の診療、病歴聴取、検査の指示などについては、指導者とともに行ない、実習する。
- (2) 腎疾患患者の入院・治療・退院について、副主治医として担当する。
- (3) 管理栄養士とともに、腎疾患患者の食事指導に参加する。
- (4) 腎センターを見学し、透析装置の原理や操作方法など、臨床工学技士の指導を受ける。

「血液内科」研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

血液内科の日常診療における診断と、治療に必要な基礎知識や基礎的スキル、系統的な問題解決方法を身につけることを目標とする。病院という社会の中での臨床医の役割を理解し、患者、身内の方との信頼関係を良好に保つよう心がけ、各種の医療従事者との協調性を身につけることが大きな目標である。

【行動目標】

- (1) 十分な病歴聴取ができる。
- (2) 十分な現症を把握することができる。
- (3) 必要な検査を理解し、オーダーできる。
- (4) 得られた情報を整理し、他の医療従事者に分かりやすくカルテに記載できる。
- (5) 必要な診断書、診療情報提供書、意見書等の書類を作成できる。

II. 実習方法（以下の全てが実習できるとは限らず、実習できると望ましい項目を示す。）

- (1) 初診患者の病歴聴取、現症の把握、記録及び専門診療科への適切な依頼。
- (2) 必要な検査の指示。
- (3) 健診精検事項の診察・解釈・指導。
- (4) 末梢血液像、骨髓像の理解・解釈。
- (5) 診療情報提供書等の各種書類の作成。

「神経内科」研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

神経内科学領域の診断と、治療に必要な基礎知識・基礎的技能、および系統的な問題解決方法を修得する。

【行動目標】

- (1) 神経学的所見を正しくとる。
- (2) 腰椎穿刺を実施し、結果を解釈する。
- (3) 頭部 CT、MRI を読影する。
- (4) 脳梗塞の病型、所見、診断、治療を説明する。
- (5) 代表的な神経学的疾患を説明する。

II. 実習方法

- (1) 指導医の準備した画像を読影する。
- (2) 実際の患者において、指導医のもとで神経学的所見をとる。
- (3) 脳梗塞およびその他神経学的疾患の患者について、診察から診断・治療までの流れを指導医とともに
行う。
- (4) 神経学的疾患入院患者 2 名を、副主治医として担当する。

「糖尿病・糖代謝」研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

糖尿病診断学と治療に必要な基礎知識を身につける。

【行動目標】

- (1) 糖代謝の生理機能に関する知識を身につける。
- (2) 糖尿病の分類、病態について理解する。
- (3) 血糖値、ヘモグロビンA1c及び尿検査の意味を理解する。
- (4) 75gOGTTの結果を解釈する。
- (5) 糖尿病三大合併症について理解する。
- (6) 糖尿病性昏睡の診断及び治療について理解する。
- (7) 糖尿病治療の三本柱（食事、運動、薬物）について理解する。
- (8) インスリン治療の原理と意義を理解する。
- (9) 糖尿病療養指導の基礎を会得する。

II. 実習方法

- (1) 指導医が行う糖尿病患者の診療を見学及び参加する。
- (2) 担当患者の検査結果を指導医とともに検討する。
- (3) 看護師による患者への指導を見学する（インスリン自己注射等）。
- (4) 糖尿病教室に患者と共に参加する。
- (5) 糖尿病療養指導士の療養指導に参加する。

「内分泌内科」 研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

内分泌内科学の診断と、治療に必要な基礎知識や基礎的技能、系統的な問題解決方法を身につける。

【行動目標】

- (1) ホルモンの生理的機能を理解する。
- (2) 内分泌疾患における特徴的な身体所見を知る。
- (3) 各種検査データの異常と、そのメカニズムを理解する。
- (4) 内分泌診療における各種検査の適応と、解釈を理解する。
- (5) 急性期・慢性期における治療法を説明する。
- (6) 甲状腺疾患について、薬剤の使用方法和注意事項を説明する。
- (7) 手術等、薬物治療以外の適応を理解する。

II. 実習方法

- (1) 内分泌専門医の診療に参加する。
- (2) 指導医の提示した身体所見・検査所見から考えられる病態を述べる。
- (3) 指導医の行う検査を見学する。
- (4) 入院患者 1 名以上を副主治医として担当する。

「感染症」研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

感染症が成立する上での、病原体と宿主と関連を理解する。感染症診療における診断と、治療へのアプローチを身につける。

【行動目標】

- (1) 代表的な病原微生物について説明する。
- (2) 抗菌薬のスペクトラム、代謝、臓器移行を知る。
- (3) 代表的な感染症の身体所見を説明する。
- (4) 適切な検体の採取方法を知る。
- (5) グラム染色を行い、培養の方法を知る。
- (6) 薬剤感受性を解釈する。
- (7) 感染症に応じた適切な抗菌薬と、投与方法を説明する。
- (8) 感染症診療での適切な治療評価を行う。
- (9) 院内感染をその防止策について説明する。
- (10) 届出が必要な感染症を述べる。

II. 実習方法

- (1) 各診療科で代表的な感染症患者を1名以上受け持つ。
- (2) 臨床所見・手技については、指導医が患者の診療に当たる際に、ともに診療を行うことによって実習する。
- (3) 喀痰グラム染色・培養は、臨床検査技師の指導を受ける。
- (4) 手洗い、防護具の使用法の院内研修会に参加する。
- (5) 結核病棟患者の診断から入院、治療、退院までの流れを見学する。保健所の結核審査会に指導医とともに参加する。
- (6) 喀痰、血液等の検体を採取する。

「一般外科」研修プログラム

I. プログラムの目標

外科疾患の診断、管理、治療ができるための基本的な知識と技能を習得し、適切に対処できるようにすることを基本的な目標とする。また、外科的疾患だけにとどまらず、広く関連領域の知識も習得するとともに、社会的にも他の範となりうるような人間性を身につける。

II. 具体的到達目標

1. 一般外科（消化器外科、内分泌外科、血管外科、小児外科等）の疾患の理解に必要な解剖、生理学を理解する。
2. 鑑別診断を念頭においた正確な病歴を聴取できる。
3. 全身の理学的所見を正確にとり、記載できる。
4. 上部、下部消化管造影、超音波検査などを実施し、その基本を身につける。
5. 単純X線検査（胸部、腹部、その他）、上部、下部消化管撮影、超音波検査、CT、MRI、血管造影検査、シンチグラム、各種内視鏡検査などを正確に読影でき、かつ病変部の診断ができるようにする。
6. 術前の全身状態を、血液生化学的検査、胸、腹部X線検査、心電図、血液ガス検査、心肺機能検査などにより把握できる。
7. 基本的な外科の手技（縫合、切開、結紮、止血など）を確実に行うことができる。
8. 麻酔機器の取り扱いを身につけ、上級医師の指導のもとに麻酔手技（硬膜外麻酔、腰椎麻酔、全身麻酔など）を習得する。
9. 手術による摘出標本の取り扱い方を学び、正確に記載できる。
10. 心電図モニター、人工呼吸器などの機器に習熟するとともに、術後管理における患者の全身状態を正確に把握できるようにする。
11. 外科的救急疾患を理解し、適切に救急処置を行い得るようにする。
12. 救急患者、重症患者に対して、気道の確保、中心静脈を含めた血管確保、心肺蘇生術を手際よく行える。
13. 術前後の全身状態を正確に把握し、適切に対処できる。
14. インフォーム・ド・コンセントの概念を理解し、患者・家族に理解できるように、病態・治療法などを説明できる。
15. 各種病態下（代謝異常、循環器疾患をもつ症例、術前後における血液凝固異常など）の輸液療法をはじめとする治療法を理解し、実践できる。
16. 悪性腫瘍患者に対する化学療法や、ターミナルケアを理解し、施行できる。

「麻酔科」研修プログラム

I. プログラムの目標

患者に安全で適切な麻酔管理を提供するために、麻酔管理に関する基礎的な知識を修得すると同時に、必要な基本的手技について理解し、技能と心構えを修得する。

II. 具体的到達目標

1. 術前に患者の状態を適切に評価し、麻酔管理における問題点を整理することができる。
2. 各種の麻酔方法の特徴を理解し、患者にとって最良の麻酔方法を選択することができる。
3. 麻酔に使用する薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、適切に使用することができる。
4. 麻酔器の構造、操作、安全機構について理解し、麻酔器や挿管用具、モニター類の準備点検が適切にできる。
5. 基本的な麻酔管理の手技について理解し、適切に実施できる。
 - (1) マスク換気、気管内挿管、ラリングマスク挿入、エアウェイの使用などの気道確保を適切に実施することができる。
 - (2) 術中の呼吸循環変動の原因を理解し、適切に対処することができる。
 - (3) 輸液管理や輸血を適切に実施することができる。
 - (4) 血液ガスの分析を行い、結果を解釈し、必要時適切に対処することができる。
 - (5) 体位による合併症について理解し、安全な体位をとることができる。
 - (6) 覚醒状態の評価と気管チューブの抜去を適切に実施することができる。
 - (7) 脊椎麻酔、硬膜外麻酔を適切に実施することができる。
6. 術後の患者の状態を適切に評価し、必要時に適切な処置を実施することができる。
 - (1) 術後回診を行い、術後の患者の状態を適切に評価することができる。
 - (2) 除痛処置など、必要時に適切な処置を実施することができる。
7. 麻酔管理の内容を、麻酔記録などに適切に記録することができる。
8. 患者や家族とのコミュニケーションや、他のスタッフとの良好な協力体制を構築するなど、麻酔管理に必要な心構えを修得する。

「整形外科」 研修プログラム

I. プログラムの目標

整形外科領域のPrimary careを中心とした基礎的知識、技術の習得に、その目標を置く。

整形外科は、四肢、脊柱に及ぶ広範な守備範囲を持つため、個々の症例には的確に対応できなければならない。診断では、外傷を中心とした疾患で、四肢、脊柱の異常所見のとり方、レントゲン検査、CTなどの諸検査の指示と、診断法を主に習得する。

また、それらの疾患に対する処置法（創処置、牽引法など）に関する基礎的知識と手技を習得し、整形外科的救急疾患に対応できることを目標とする。基礎的知識及び手技の習得は勿論のこと、各疾患についての知識を基に適切な診療計画を立案し、指導医とともに実践する。

さらには、理学療法についての基本的知識を習得することを目標とする。

II. 具体的到達目標

1. 整形外科の基本的診察法の習得

(1) 特に四肢外傷、脊椎外傷における基本的診察法の習得

2. 整形外科の基本的検査法。検査結果・読影等の習得

(1) 骨関節単純レントゲン

(2) 骨関節断層写真、CT、MRI

3. 整形外科疾患の治療法についての基本的知識の習得

(1) 包帯固定法、副子固定法、ギプス固定法、装具療法

(2) 関節穿刺、関節注射

(3) 介達、直達牽引法

(4) 創処置

4. 整形外科的疾患のリハビリテーションに関する基本的知識と処方の習得

(1) 外来および入院患者の術前、術後のリハビリテーション

III. 臨床研修自己評価

1. 問診、診察

(1) 礼儀正しく、患者に無用な不安を与えない態度をとることができる。

(2) 家族歴、既往歴、麻酔歴、薬物アレルギー等を、詳細かつ系統的に聴取することができる。

(3) 系統的に患者の全身所見をとり、異常所見を指導医に報告することができる。

(4) 四肢の変形、炎症所見などの局所所見を的確に記載することができる。

2. 基本的臨床検査法

- (1) 血液生化学的検査の結果解釈が十分にできる。
- (2) 細菌塗抹、培養及び薬剤感受性の結果を解釈することができる。
- (3) 腰椎検査を行うことができる。
- (4) 関節可動域測定法、徒手筋力テストが十分理解できている。

3. X線検査法

- (1) 四肢、脊椎の単純X線写真を読影し、主な異常を指摘できる。
- (2) 関節造影の適応と方法を理解し、その結果を解釈することができる。
- (3) 脊髄造影、椎間板造影、神経根造影の適応と方法を理解し、その結果をすることができる。

4. ギプス包帯、装具

- (1) 四肢のギプス包帯につき、正しい肢位で患肢を保持できる。
- (2) ギプス包帯の適応と手技をよく理解している。
- (3) 四肢に処方される装具をよく理解している。

5. 整形外科的手技

- (1) 清潔と不潔の区別を明確に判断でき、不潔となった場合には、速やかな対応ができる。
- (2) 基本的手術手技に慣れ、簡単な手術機器の操作ができる。
- (3) 局所浸潤麻酔、伝達麻酔の手技を理解し、指導医と共に行うことができる。

6. 術前、術後の管理

- (1) 指導医とともに、手術に必要な術前の検査を指示し、その結果を判断できる。
- (2) 術後管理を指導医とともに行い、全身状態について評価することができる。

7. 整形外科的救急

- (1) 全身状態の把握を短時間に要領よく行い、指導医に系統的に報告することができる。
- (2) 指導医とともに必要な検査指示を行い、その結果を解釈し、適切な治療方針を立てることができる。

「脳神経外科」研修プログラム

I. プログラムの目標

脳神経外科的疾患患者に適切で良質な医療を提供するために、基本的な医療面接スキルを身に付けると同時に、診断法と治療に関する基本的な知識と技能を修得する。

II. 具体的到達目標

1. 脳神経外科的疾患の理解に必要な解剖生理学を理解する。
 - (1) 脳、脊髄、末梢神経の局所解剖を理解している。
 - (2) 頭蓋内圧、脳循環に関する解剖生理を理解している。
2. 病歴の聴取と神経学的検査が適切にできる。
 - (1) 鑑別診断を念頭に置いた正確な病歴聴取ができる。
 - (2) 神経学的所見の発生様式、発生日時、およびその時間的推移を正確に記載できる。
3. 意識障害のある患者を診察し、意識障害の程度、瞳孔の所見、血圧呼吸等のバイタルサイン、麻痺や失語症の有無を正確に記載できる。
4. 脳神経外科疾患の診断方法を理解する。
 - (1) 頭蓋単純写真からその所見を述べることができる。
 - (2) CT スキャン、MRI で描出される病変を指摘し、診断できる。
 - (3) 脳血管撮影や脳波の所見を記載できる。
 - (4) SPECT、3D-CT、頸動脈エコー、MRA の所見を理解できる。
 - (5) 内分泌検査を理解して行い、その所見を判断できる。
 - (6) 簡単な知能検査を行い、評価できる。
 - (7) 眼底検査を行い、うっ血乳頭、眼底出血などの所見があればそれを記載できる。
5. 基本的な脳神経外科的処置と治療方法を理解し、実施できる。
 - (1) 脳神経外科患者に対して、必要に応じて気道の確保、血管確保を手際よく行うことができる。
 - (2) 腰椎穿刺を行い、髄液所見を判断することができる。
 - (3) 脳血管撮影の適応と合併症をよく理解した上で介助できる。
 - (4) 頭皮創部の止血と縫合が的確にできる。
 - (5) 気管切開、慢性硬膜下血腫、脳室ドレナージ等の手術を介助者、あるいは術者としての的確に行うことができる。
6. リハビリテーションに対する知識を有し、おおよそのゴールを設定できる。

「救急部門」 研修プログラム

I. プログラムの目標

救急外来患者に適切に対応し、良質な医療を提供するための救命救急医療に必要な基礎的知識・技能・心構えを修得する。

救命救急室の研修日および宿直時に、救急外来患者の診察を通して、上級医師の指導の下に研修する。

II. 具体的到達目標

1. 短時間で必要な現病歴、既往歴、家族歴などを聴取し、vital sign ほか、全身の診察所見を得ることができる。
2. 血液生化学検査や単純X線、CT、超音波などの画像診断の意義を理解し、適切に指示できる。
3. 診察所見および検査結果から病態の診断、緊急度、重症度の的確な判断が出来る。また、頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。必要時専門医への適切なコンサルテーションができる。
4. 気道確保、気管内挿管、人工呼吸、心マッサージ、除細動、血管確保、輸液・輸血、蘇生薬剤の投与などの救急救命処置方法について理解し、適切に実施できる。
5. 圧迫止血法、皮膚縫合法、簡単な切開・排膿や軽度の外傷や熱傷の処置、創傷処置法、包帯法、骨折の処置法、胃管の挿入と管理、導尿などの基本的な救急処置法について理解し、適切に実施できる。
6. 救急外来における基本的な薬剤による治療法について理解し、適切に使用できる。
7. 診療内容を診療録に適切に記録することができる。
8. 患者や家族とのコミュニケーションや、上級医師や他のスタッフと良好な協力体制を構築するなど、救命救急医療に必要な心構えを修得する。

「眼科」研修プログラム

I. プログラムの目標

眼科的疾患患者に適切で良質な医療を提供するために、基本的な医療面接スキルを身に付けると同時に、診断法と治療に関する基本的な知識と技能を修得する。

II. 具体的到達目標

1. 眼科的疾患の理解に必要な解剖生理学を理解する。
 - (1) 眼球の局所解剖を理解している。
 - (2) 視覚に対する解剖生理を理解している。

2. 病歴の聴取と眼科的検査が適切にできる。
 - (1) 鑑別診断を念頭に置いた正確な病歴聴取ができる。
 - (2) 視力検査、眼圧測定、視野検査、光干渉断層計などの眼科検査を行う。

3. 眼科疾患の診断方法を理解する。
 - (1) 眼底検査より網膜の異常、正常について述べるができる。
 - (2) 前眼部細隙灯所見より疾患の鑑別ができる。
 - (3) 診断に必要な眼科的検査について述べるができる。
 - (4) 眼外傷患者に対して行うべき検査と行っていない検査について理解できる。
 - (5) 全身的疾患を伴う眼科疾患について理解できる。
 - (6) 簡単な知能検査を行い評価できる。
 - (7) 視野検査の結果を解釈し、緑内障について理解できる。

4. 眼科的治療方法を理解し実施できる。
 - (1) 緑内障発作で来院した患者について診断ができる。
 - (2) 化学性角膜熱傷の患者に対して適切な処置ができる。
 - (3) 白内障、緑内障、硝子体手術などの眼科手術の適応について理解できる。
 - (4) 点眼薬の種類と用法について理解できる。
 - (5) 指導医とともに白内障手術の助手を行い、手術について理解を深める。

III. 臨床研修自己評価

- (1) 診察した症例について学習した内容を指導医に報告し、疾患の理解を深める。
- (2) 代表的な眼科的疾患について、診断することができる。
- (3) 眼科的救急患者に対して、適切な処置を行う事が出来る。
- (4) 眼科症状がみられる全身的な疾患について述べる事ができる。

「皮膚科」研修プログラム

I. 実習の目標

皮膚科の診断・治療に関する基本的で最低限必要な知識と技術を効率よく短期間で確実に習得する。

II. 具体的到達目標

1. 皮膚科学的診察法の習得

- (1) 病歴の正確な聴取とカルテへの正しい記載
- (2) 全身皮膚、粘膜の的確な診察（形態、色調、皮疹の集簇の仕方、分布、硬度など）
- (3) 必要な検査の選択

2. 皮膚科学的検査法の習得

- (1) 理学的検査：硝子圧、皮膚描記症、知覚検査
- (2) 細菌、寄生虫検査：染色法（ギムザ染色）
直接鏡法（疥癬虫など）
培養法（一般細菌）
- (3) 真菌検査：KOH法、培養法
- (4) ウイルス検査：ギムザ染色
- (5) ダーモスコピー
- (6) アレルギー検査：パッチテスト
- (7) 皮膚生検

III. 皮膚科学的治療の習得

- (1) 外用療法：ステロイド外用剤、免疫抑制剤、ビタミン剤、抗真菌剤、抗ウイルス剤、抗菌剤、抗潰瘍剤、保湿剤
- (2) 光線療法：NB-UVB
- (3) 内服剤：ステロイド、抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤、抗菌剤、抗ウイルス剤、抗真菌剤、レチノイド、免疫抑制剤
- (4) 外科的治療：小切開（排膿）、皮膚縫合剤、局所麻酔法、冷凍凝固法

「泌尿器科」研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

泌尿器科診断学と、治療に必要な基礎知識や基礎的技能を身につける。

【行動目標】

- (1) 症状の発見、変化、性質を経時的に把握し、記録することができる。
- (2) 触診にて、背部叩打痛、下腹部膨隆、陰部や陰囊（精巣、精巣上体、精管等）の病変を指摘できる。
- (3) 直腸診により、前立腺の大きさ、疼痛、硬度、表面の性状等を記載できる。
- (4) 双手診により、膀胱や前立腺と、骨盤内臓器の関係を把握できる。
- (5) 尿検査、尿細胞診、腫瘍マーカーを理解し、判断できる。
- (6) 超音波検査で腎、膀胱、前立腺、精巣を描出し、主な病変を指摘できる。
- (7) 尿流量測定、残尿測定から排尿状態を説明できる。
- (8) レントゲン、CT、MRIなどの画像検査で解剖を理解し、読影できる。
- (9) 膀胱や尿管鏡検査の所見を理解し、診断できる。
- (10) 泌尿器科で使用される種々の薬剤の薬理作用と有害事象を理解し、適正に使用できる。
- (11) 尿道カテーテルの特徴を理解し、導尿および膀胱内カテーテル留置が適正にできる。
- (12) 尿路結石、尿路感染症の病態を理解し、適切な応急処置が実施できる。
- (13) 緊急処置や手術が必要となる、急性陰囊症や結石性腎盂腎炎の鑑別診断ができる。

II. 実習方法

- (1) 外来診療および救急外来コンサルトを指導医・担当医とともにを行い、泌尿器領域疾患の診断から初期治療までを理解する。
- (2) 尿路カテーテル交換、膀胱鏡検査などの処置や検査の目的や手順を理解し、助手として実施し、能力に応じて自ら処置や検査を行う。
- (3) 逆行性尿路造影、尿管ステント留置、腎瘻交換などを助手・術者として行う。
- (4) 入院患者を担当医として受け持ち、上級医ならびに指導医の指導の下、問診、身体診察、検査データの把握を行い、治療計画の立案に参加する。
- (5) 毎日担当患者の回診を行い、指導医と方針を相談する。
- (6) 輸液、検査、処方などのオーダーを、主治医の指導の下で積極的に能動的に行う。

「耳鼻咽喉科」研修プログラム

I. 実習目標

【一般目標】

耳鼻咽喉科の診療・検査などについて理解を深め、初歩的なものは自ら行い得るよう研修する。専門的な診療の概要を理解し、鼻出血、急性中耳炎、めまい、扁桃炎などに対する適切な初期対応ができ、耳鼻咽喉科専門医に紹介すべき疾患や、耳鼻咽喉科の救急疾患の的確な判断ができるようになることを目標とする。

【具体的な到達目標】

- (1) 視診、触診、耳鏡・鼻鏡・喉頭鏡検査などの耳鼻咽喉科的診察法の習得。
- (2) 聴覚検査、めまい平衡検査などの原理を理解するとともに、検査を自ら実施し、その結果を解析し診断する。
- (3) 内視鏡検査を実施し、鼻腔、咽頭、喉頭などの病的所見を把握する。
- (4) 画像検査において、頭頸部のCT・MRI画像、頸部エコーなどから所見を読み取る。
- (5) 画像検査において、診断に必要な血液・生化学検査の結果を理解し、診断と治療に結び付けられる。
- (6) 指導医の下に、以下の手術、処置の基本的な手技を経験

II. 実習方法

指導医の下に以下の手術、処置の基本的な手技を経験する。

- (1) 鼻出血止血処置
- (2) 外耳道・鼻腔・咽頭異物除去術
- (3) 頭頸部外傷縫合処置
- (4) 気管切開後の気管口の管理とカニューレ交換
- (5) 嚥下訓練などのリハビリテーションの理解

「小児科（高山赤十字病院）」研修プログラム

I. プログラムの目標と概要

1. 総合診療方式（全科ローテート）の中で、小児科研修中は一般臨床医に要求される正常小児の成長発達、小児保健、主な小児疾患についての診断と治療に必要な知識を習得する。
2. 研修期間中は、当該指導医の下に外来診療（一部入院診療）に従事する。
3. 小児科の時間外救急診療にも一部従事する。

II. 具体的到達目標

1. 一般的診療能力
 - (1) 両親・保護者から診断に必要な情報を的確に聞き取る。
 - (2) 正しい手技による診察。
 - (3) 情報を総合した適切な診断。
 - (4) 年齢、重症度に応じた治療計画。薬物療法は、薬剤の形態、投与経路、用量、用法の決定と服用法の理解。
2. 診療手技・処置
採血、静脈点滴、吸入療法、酸素療法などの基本的な手技・処置を習得。
3. 検査と結果の評価
末梢血一般検査、尿一般検査、身体各部の単純X線撮影の適切な指示と読影など、基本的な検査結果の評価。
4. 感染症
小児に特徴的な感染症の理解。
5. 次の症候の重症度を判断して、救急処置が行える。
発熱、けいれん、意識障害、呼吸困難、喘息発作、ショック、脱水、中毒、急性腹症、事故（誤飲、気管内異物など）

「産婦人科」研修プログラム

I. プログラムの目標

産婦人科の外来および病棟で研修し、医師として最低限必要な産科および婦人科の基礎的知識、技術を習得する。

II. 具体的到達目標

1. 産科

- (1) 正常の妊娠、分娩、産褥の生理を理解し、それらの経過を把握できる。
- (2) 正常分娩介助、正常新生児取扱い、軽度の会陰裂傷縫合術、会陰切開縫合術の習得。
- (3) 妊娠時の子宮および胎児の経膈、経腹超音波手技を理解する。
- (4) 妊娠中のNST、および分娩時の分娩監視装置の所見を理解できる。
- (5) 妊娠時母体の血液学的、生理学的ならびに内分泌学的所見を理解できる。

2. 婦人科

- (1) 婦人科的一般診察法（問診、視診、触診、内診）の理解。
- (2) 細胞診、コルポスコプ、ヒステロスコプ、超音波診断、子宮卵管造影法、腹腔鏡検査などの理解。
- (3) 婦人科疾患の超音波、CT、MRI等の画像診断の造影
- (4) 子宮付属器摘出術、腹式および腔式子宮全摘術、子宮脱手術等の手術手技の理解。
- (5) 婦人科手術における麻酔および全身管理法の理解。
- (6) 子宮外妊娠等の婦人科救急疾患の診断および治療法の理解。
- (7) 婦人科悪性腫瘍に対する手術療法、化学療法、放射線療法、ホルモン療法の理解。
- (8) 不妊症に関する検査、治療法の理解。
- (9) 婦人科感染症の診断と治療法の理解。
- (10) 更年期障害、骨粗鬆症、高脂血症など中高年婦人の疾患の診断と治療法の理解。

「精神神経科（須田病院）」研修プログラム

I. プログラムの目標

精神科の取り扱うものは、現時点では原因が特定されていない、いわゆる内因性といわれる統合失調症や躁鬱病などの疾患から、心理的環境の影響から起こる心因性のもの、一般身体疾患による外因性のものなど多岐にわたります。人間たる所以のところである、「心」「精神」といったものに関わる症状が出るわけですので、身体から社会心理的状況までを視野に入れながら診療しなければなりません。

また、精神科に通院するということが未だに偏見のまなざしで見られることがあり、医師としての基本的な心構えとして、人々を啓蒙するぐらいの視野を得て欲しいと考えます。

II. 具体的到達目標

1. 初診患者の必要十分な問診ができる。
2. 患者およびその家族に共感的態度を取れる。
3. 代表的疾患について、その特徴と治療の概要を理解する。
4. 精神的症状を記載し、おおまかな鑑別診断ができる。
5. 精神科薬剤の作用、副作用を理解する。

III. 臨床研修自己評価表

1. 患者や家族に不安を与えず、疾患を念頭に置きながら病歴を聞き取れる。
2. 家族歴、既往歴、生育歴、病前性格、生活歴などを漏れなく聞き取れる。
3. どのような訴えについても共感を示し、かつ適切な距離をとることができる。
4. 家族関係、社会的諸問題など全体の中で患者を評価できる。
5. 感情障害（うつ病、謹書病など）を診断し、治療ができる。
6. 不安障害（panic disorder など）を診断し、治療ができる。
7. 譫妄を診断し、治療ができる。
8. 精神病圏（統合失調症など）の見立てと治療の流れが分かる。
9. アルコール依存症の見立てと治療の流れが分かる。
10. 向精神薬の主作用、副作用が分かる。
11. 身体的疾患の除外診断のために、CT、EEG、採血などの指示ができる。

「保健所」研修プログラム

I. プログラムの目標

医師として、地域保健サービス向上の活動と連携するために、保健所の業務に必要な基本的知識と心構えを修得する。

II. 具体的到達目標

1. 地域保健と住民の健康増進活動における保健所の広域的、専門的、技術的拠点としての役割を整理し、理解する。
2. 県の健康障害半減計画を推進するための保健所の活動について理解する。
3. 食中毒や感染症など、地域で発生した健康危機に対応するための健康危機管理マニュアルに基づき、どのような体制が整えられているかを理解し、実際に対応する場合の心構えを修得する。
4. 市町村保健センターと連携した公衆衛生の実践機能を強化する保健所の活動について理解する。
5. 健康自己診断プラザの開設と住民の健康づくりを推進する活動を理解する。
6. 市町村や医療機関と連携した保健・医療・福祉に関する住民サービスの充実の活動を理解する。
7. 地域保健の資質向上と、地域保健サービス向上の活動について理解する。

「地域医療」研修プログラム

I. プログラムの目標

へき地医療を必要とする患者とその家族に対して、適切な医療を提供するためにプライマリーケアの基本的診療に必要な知識、技能、心構えを修得する。

II. 具体的到達目標

1. 患者や家族のへき地医療に対するニーズを、身体・心理・社会的側面から理解できる。
2. 必要な病歴の聴取と身体診察を実施し、その所見を適切に記録できる。
3. 診察所見から、患者の病態をある程度把握することが出来る。
4. 一般外来における基本的な治療法について理解し、適切に実施できる。
5. 患者や家族へ、療養上の基本的な留意点などについて適切な指示や指導ができる。
6. 診療内容を診療録に適切に記録することができる。
7. 患者や家族とのコミュニケーションや、上級医師や他のスタッフと良好な協力体制を構築するなど、へき地医療に必要な心構えを修得する。
8. へき地診療所の役割と医療連携の重要性について理解する。

「療養型病床」 研修プログラム

I. プログラムの目標

急性期医療終了後に、療養型病床への入院を必要とする患者とその家族に対して、適切な医療を提供するために、療養型病床における基本的診療に必要な知識、技能、心構えを修得する。

II. 具体的到達目標

1. 患者や家族の療養型病床に対するニーズを身体・心理・社会的側面から理解できる。
2. 基本的な病歴の聴取と身体診察を実施し、所見を適切に記録できる。
3. 診察所見から患者の病態を、ある程度把握することが出来る。
4. 療養型病床における基本的な治療法について理解し、適切に実施できる。
5. 患者や家族へ、在宅療養上の基本的な留意点などについて、適切な指示や指導ができる。
6. 診療内容を診療録に適切に記録することができる。
7. 患者や家族とのコミュニケーションや、上級医師や他のスタッフと良好な協力体制を構築するなど、療養型病床に必要な心構えを修得する。
8. 療養型病床の役割と医療連携の重要性を理解する。
9. 社会福祉施設等の役割について理解する。

「在宅医療」研修プログラム

I. プログラムの目標

急性期医療終了後に、在宅医療を必要とする患者とその家族に対して、適切な医療を提供するために、在宅医療における基本的診療に必要な知識、技能、心構えを修得する。

II. 具体的到達目標

1. 患者や家族からの、在宅医療に対するニーズを身体・心理・社会的側面から理解できる。
2. 基本的な病歴の聴取と身体診察を実施し、所見を適切に記録できる。
3. 診察所見から患者の病態を、ある程度把握することが出来る。
4. 在宅医療における基本的な治療法について理解し、適切に実施できる。
5. 患者や家族へ、在宅療養上の基本的な留意点などについて、適切な指示や指導ができる。
6. 診療内容を診療録に適切に記録することができる。
7. 患者や家族とのコミュニケーションや、関連機関と良好な協力体制を構築するなど、在宅医療に必要な心構えを修得する。
8. 在宅医療の役割と医療連携の重要性を理解する。
9. 在宅医療に関する知識・技術の修得だけでなく、患者様の在宅医療における諸問題に対して、最良の治療方を選択するために必要な全人的な観点煮立った判断力を身につけることができる。
10. 各種疾患を特定の診療科にとらわれずに総合的に判断することができる。
11. 訪問診療・看護・訪問リハビリテーション、通所介護、リハビリテーションなどのほか、自宅における様々な家事を支援するヘルパー、家族の不在時を支援する介護支援などの運用方法や適応範囲などを、患者様の状況と必要性とに照らし合わせ活用できる知識と技術を身につけることができる。

「住民健診」研修プログラム

I. プログラムの目標

1. 対策型健診、任意型健診の意味・流れについて理解する。
2. 平成20年度からの新しい健診・保健指導について理解する。
3. 内臓脂肪型肥満に着目した早期介入、行動変容の重要性について学習する。
4. がん検診が死亡率減少効果に有用であることを学習する。
5. 健診は異常を指摘するだけでなく、精度を維持する必要があることを学習する。

II. 具体的到達目標

1. 住民健診開始前に、健診内容の説明・了解の下、契約書を受診者側と健診実施側で結び、契約に基づいて行なわれることを理解する。
2. 巡回健診に参加し、受診住民の健診に対する意識・要望、あるいは評価等を理解する。
3. 巡回健診に参加し、参加住民からの質問に対し対応する。
4. 住民健診の検査後の検体処理、画像処理、情報処理などがどのように行われるかを理解する。
5. 実際に検体処理等に参加し、精度管理について考える。
6. 画像読影などの1次読影に参加し、健診の結果に対する責任と難易度について理解する。
7. 契約から結果提出に至るまで、多くの職員ならびに関係者（地域の保健師などを含め）が関与するチーム医療（健診）であることを理解する。
8. 精密検査の結果を整理・分析することの重要性を考察する。

「基本的な診療において必要な分野・領域」 研修プログラム

研修項目

- (1) 院内感染や性感染症等を含む感染対策
… 感染対策委員会が担当するコンプライアンス研修会への必要回数の参加
- (2) 医療安全
… 医療安全管理対策委員会が担当するコンプライアンス研修会への必要回数の参加
- (3) 虐待への対応
… 参考：BEAMS 虐待対応プログラム <https://beams.childfirst.or.jp/>
- (4) 社会復帰支援 … 医療介護センターにおける研修
- (5) 緩和ケア … 緩和ケア病棟での研修
- (6) アドバンス・ケア・プランニング（ACP） … 院内での研修
- (7) 臨床病理検討会（CPC） … 年1回以上の参加
- (8) 予防接種等を含む予防医療
… 予防接種での研修

I. 臨床研修の到達目標（※厚生労働省 医師臨床研修指導ガイドライン2020年度版より抜粋）

病める人の尊厳を守り医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資格・能力を身に付ける。医師としての基盤形成段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的な診療業務ができるレベルの資質・能力を習得する。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の返遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性 診療、研究、教育に関する倫理的問題を認識し適切に行動する。

- ①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を甘味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づき、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診察を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を心理・社会的側面を含め効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を処理し、分かりやすい言葉で説明し、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全に配慮する。

- ① 医療の質と患者の安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度やシステムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的研究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じ医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治療の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成に携わり、障害にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができている。

2. 病棟診療

旧跡の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・漸進的な医療とケアを行い、地域医療に配慮した隊員調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時に応急処置や病院外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特製及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

【経験すべき症候】

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便秘異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候（29 症候） 経験すべき疾病・病態 外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上

【経験すべき疾病・病態】

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）（26 疾病・病態）

※ 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

II. 到達目標の達成度評価

研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。

上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。

2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。

【研修医評価票】

I. 「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナルリズム）」に関する評価

- A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与
- A-2. 利他的な態度
- A-3. 人間性の尊重
- A-4. 自らを高める姿勢

II. 「B. 資質・能力」に関する評価

- B-1. 医学・医療における倫理性
- B-2. 医学知識と問題対応能力
- B-3. 診療技能と患者ケア
- B-4. コミュニケーション能力
- B-5. チーム医療の実践
- B-6. 医療の質と安全の管理
- B-7. 社会における医療の実践
- B-8. 科学的探究
- B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

III. 「C. 基本的診療業務」に関する評価

- C-1. 一般外来診療
- C-2. 病棟診療
- C-3. 初期救急対応
- C-4. 地域医療

Ⅲ. 臨床研修修了認定基準

1. 「経験すべき症候 (29 症候)」と「経験すべき疾病・病態 (26 疾病・病態)」を全て経験すること。日常業務で作成する病歴要約で確認する。

2. 2年間の研修期間中に、院内感染や性感染症等を含む感染対策、予防接種等を含む予防医療、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング (ACP)、臨床病理検討会 (CPC) 等、基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修会に参加すること。緩和ケアにおいては、厚生労働省が定める「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した内容の緩和ケア研修会に参加すること。

3. 上記内容の評価は、EPOC2 (オンライン臨床教育強化システム) 等により行う。EPOC2への入力是最終年度の2月末日までとする。

4. 2年間で病休及び産休等で休む場合は、有給休暇を含めて90日以内であること。

5. 上記の履修を修了した臨床研修医を対象に、プログラム責任者は、研修管理委員会に対して研修医ごとに臨床研修の目標の達成状況を「臨床研修の目標の達成度判定票 (厚労省が定める様式 21)」を用いて報告する。

6. 評価は、研修実施期間の評価及び臨床研修の目標の達成度の評価 (目標等の達成度の評価及び臨床医としての適性の評価) に分けて行い、両者の基準が満たされた時に修了と認める。

7. 研修管理委員会での承認を経て、研修管理委員会委員長 (病院長) が適格者を認定し、臨床研修修了認定証を授与する

研修医評価票 I

「A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」に関する評価

研修医名 _____

研修分野・診療科 _____

観察者 氏名 _____ 区分 医師 医師以外(職種名 _____)

観察期間 _____年____月____日 ~ _____年____月____日

記載日 _____年____月____日

	レベル1 期待を大きく下回る	レベル2 期待を下回る	レベル3 期待通り	レベル4 期待を大きく上回る	観察機会なし
A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A-2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A-3. 人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A-4. 自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※「期待」とは、「研修修了時に期待される状態」とする。

印象に残るエピソードがあれば記述して下さい。特に、「期待を大きく下回る」とした場合は必ず記入をお願いします。

研修医評価票 II

「B. 資質・能力」に関する評価

研修医名： _____

研修分野・診療科： _____

観察者 氏名 _____ 区分 医師 医師以外（職種名 _____）

観察期間 _____年____月____日 ~ _____年____月____日

記載日 _____年____月____日

レベルの説明

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
臨床研修の開始時点で 期待されるレベル (モデル・コア・カリキュラム相当)	臨床研修の中間時点で 期待されるレベル	臨床研修の終了時点で 期待されるレベル (到達目標相当)	上級医として 期待されるレベル

1. 医学・医療における倫理性：

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時で期待されるレベル	レベル4
<p>■医学・医療の歴史的な流れ、臨床倫理や生と死に係る倫理的問題、各種倫理に関する規範を概説できる。</p> <p>■患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントとインフォームドアセントなどの意義と必要性を説明できる。</p> <p>■患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を理解した上で適切な取り扱いができる。</p>	人間の尊厳と生命の不可侵性に関して尊重の念を示す。	人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。	モデルとなる行動を他者に示す。
	患者のプライバシーに最低限配慮し、守秘義務を果たす。	患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。	モデルとなる行動を他者に示す。
	倫理的ジレンマの存在を認識する。	倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。	倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づいて多面的に判断し、対応する。
	利益相反の存在を認識する。	利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。	モデルとなる行動を他者に示す。
	診療、研究、教育に必要な透明性確保と不正行為の防止を認識する。	診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。	モデルとなる行動を他者に示す。

観察する機会が無かった

コメント：

2. 医学知識と問題対応能力：

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4
<p>■必要な課題を発見し、重要性・必要性に照らし、順位付けをし、解決にあたり、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な方法を見出すことができる。適切な自己評価と改善のための方策を立てることができる。</p> <p>■講義、教科書、検索情報などを統合し、自らの考えを示すことができる。</p>	<p>頻度の高い症候について、基本的な鑑別診断を挙げ、初期対応を計画する。</p>	<p>頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。</p>	<p>主な症候について、十分な鑑別診断と初期対応をする。</p>
	<p>基本的な情報を収集し、医学的知見に基づいて臨床決断を検討する。</p>	<p>患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。</p>	<p>患者に関する詳細な情報を収集し、最新の医学的知見と患者の意向や生活の質への配慮を統合した臨床決断をする。</p>
	<p>保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案する。</p>	<p>保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。</p>	<p>保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、患者背景、多職種連携も勘案して実行する。</p>

観察する機会が無かった

コメント：

3. 診療技能と患者ケア：

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4				
<p>■必要最低限の病歴を聴取り、網羅的に系統立てて、身体診察を行うことができる。</p> <p>■基本的な臨床技能を理解し、適切な態度で診断治療を行うことができる。</p> <p>■問題志向型医療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。</p> <p>■緊急を要する病態、慢性疾患、に関して説明ができる。</p>	必要最低限の患者の健康状態に関する情報を心理・社会的側面を含めて、安全に収集する。	患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。	複雑な症例において、患者の健康に関する情報を心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。				
	基本的な疾患の最適な治療を安全に実施する。	患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。	複雑な疾患の最適な治療を患者の状態に合わせて安全に実施する。				
	最低限必要な情報を含んだ診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切に作成する。	診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。	必要かつ十分な診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成でき、記載の模範を示せる。				
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観察する機会が無かった

コメント：

4. コミュニケーション能力：

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4				
<p>■コミュニケーションの方法と技能、及ぼす影響を概説できる。</p> <p>■良好な人間関係を築くことができ、患者・家族に共感できる。</p> <p>■患者・家族の苦痛に配慮し、分かりやすい言葉で心理的社会的課題を把握し、整理できる。</p> <p>■患者の要望への対処の仕方を説明できる。</p>	最低限の言葉遣い、態度、身だしなみで患者や家族に接する。	適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。	適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで、状況や患者家族の思いに合わせた態度で患者や家族に接する。				
	患者や家族にとって必要最低限の情報を整理し、説明できる。指導医とともに患者の主体的な意思決定を支援する。	患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。	患者や家族にとって必要かつ十分な情報を適切に整理し、分かりやすい言葉で説明し、医学的判断を加味した上で患者の主体的な意思決定を支援する。				
	患者や家族の主要なニーズを把握する。	患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。	患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、統合する。				
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観察する機会が無かった

コメント：

5. チーム医療の実践：

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4			
<p>■チーム医療の意義を説明でき、(学生として)チームの一員として診療に参加できる。</p> <p>■自分の限界を認識し、他の医療従事者の援助を求めることができる。</p> <p>■チーム医療における医師の役割を説明できる。</p>	<p>単純な事例において、医療を提供する組織やチームの目的等を理解する。</p>	<p>医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。</p>	<p>複雑な事例において、医療を提供する組織やチームの目的とチームの目的等を理解したうえで実践する。</p>			
	<p>単純な事例において、チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。</p>	<p>チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。</p>	<p>チームの各構成員と情報を積極的に共有し、連携して最善のチーム医療を実践する。</p>			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観察する機会が無かった

コメント：

6. 医療の質と安全の管理：

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4
<p>■医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる</p> <p>■医療現場における報告・連絡・相談の重要性、医療文書の改ざんの違法性を説明できる</p> <p>■医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる</p>	<p>医療の質と患者安全の重要性を理解する。</p> <p>日常業務において、適切な頻度で報告、連絡、相談ができる。</p> <p>一般的な医療事故等の予防と事後対応の必要性を理解する。</p> <p>医療従事者の健康管理と自らの健康管理の必要性を理解する。</p>	<p>医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。</p> <p>日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。</p> <p>医療事故等の予防と事後の対応を行う。</p> <p>医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。</p>	<p>医療の質と患者安全について、日常的に認識・評価し、改善を提言する。</p> <p>報告・連絡・相談を実践するとともに、報告・連絡・相談に対応する。</p> <p>非典型的な医療事故等を個別に分析し、予防と事後対応を行う。</p> <p>自らの健康管理、他の医療従事者の健康管理に努める。</p>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観察する機会が無かった

コメント：

7. 社会における医療の実践：

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4			
<p>■離島・へき地を含む地域社会における医療の状況、医師偏在の現状を概説できる。</p> <p>■医療計画及び地域医療構想、地域包括ケア、地域保健などを説明できる。</p> <p>■災害医療を説明できる</p> <p>■（学生として）地域医療に積極的に参加・貢献する</p>	保健医療に関する法規・制度を理解する。	保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。	保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解し、実臨床に適用する。			
	健康保険、公費負担医療の制度を理解する。	医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。	健康保険、公費負担医療の適用の可否を判断し、適切に活用する。			
	地域の健康問題やニーズを把握する重要性を理解する。	地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。	地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案・実行する。			
	予防医療・保健・健康増進の必要性を理解する。	予防医療・保健・健康増進に努める。	予防医療・保健・健康増進について具体的な改善案などを提示する。			
	地域包括ケアシステムを理解する。	地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。	地域包括ケアシステムを理解し、その推進に積極的に参画する。			
	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要が起こりうることを理解する。	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要を想定し、組織的な対応を主導する実際に対応する。			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった						

コメント：

8. 科学的探究：

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4
■研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われることを説明できる。 ■生命科学の講義、実習、患者や疾患の分析から得られた情報や知識を基に疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。	医療上の疑問点を認識する。	医療上の疑問点を研究課題に変換する。	医療上の疑問点を研究課題に変換し、研究計画を立案する。
	科学的研究方法を理解する。	科学的研究方法を理解し、活用する。	科学的研究方法を目的に合わせて活用実践する。
	臨床研究や治験の意義を理解する。	臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。	臨床研究や治験の意義を理解し、実臨床で協力・実施する。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観察する機会が無かった

コメント：

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢：

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4
■生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収の必要性を認識する。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収のために、常に自己省察し、自己研鑽のために努力する。
	同僚、後輩、医師以外の医療職から学ぶ姿勢を維持する。	同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。	同僚、後輩、医師以外の医療職と共に研鑽しながら、後進を育成する。
	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）の重要性を認識する。	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握し、実臨床に活用する。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観察する機会が無かった

コメント：

研修医評価票 III

「C. 基本的診療業務」に関する評価

研修医名 _____

研修分野・診療科 _____

観察者 氏名 _____ 区分 医師 医師以外（職種名 _____）

観察期間 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日

記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

レベル	レベル1 指導医の 直接の監 督の下で できる	レベル2 指導医が すぐに対 応できる 状況下で できる	レベル3 ほぼ単独 でできる	レベル4 後進を指 導できる	観察 機会 なし
C-1. 一般外来診療 頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C-2. 病棟診療 急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C-3. 初期救急対応 緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C-4. 地域医療 地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

印象に残るエピソードがあれば記述して下さい。

臨床研修の目標の達成度判定票

研修医氏名： _____

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

到達目標	達成状況: 既達/未達	備 考
1.社会的使命と公衆衛生への寄与	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
2.利他的な態度	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
3.人間性の尊重	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
4.自らを高める姿勢	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	

B. 資質・能力

到達目標	既達/未達	備 考
1.医学・医療における倫理性	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
2.医学知識と問題対応能力	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
3.診療技能と患者ケア	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
4.コミュニケーション能力	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
5.チーム医療の実践	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
6.医療の質と安全の管理	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
7.社会における医療の実践	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
8.科学的探究	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	

C. 基本的診療業務

到達目標	既達/未達	備 考
1.一般外来診療	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
2.病棟診療	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
3.初期救急対応	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	
4.地域医療	<input type="checkbox"/> 既 <input type="checkbox"/> 未	

臨床研修の目標の達成状況

既達 未達

(臨床研修の目標の達成に必要な条件等)

年 月 日

〇〇プログラム・プログラム責任者 _____